

AIが描く知財戦略の未来：AIサムライ「特許網自動生成システム」の衝撃

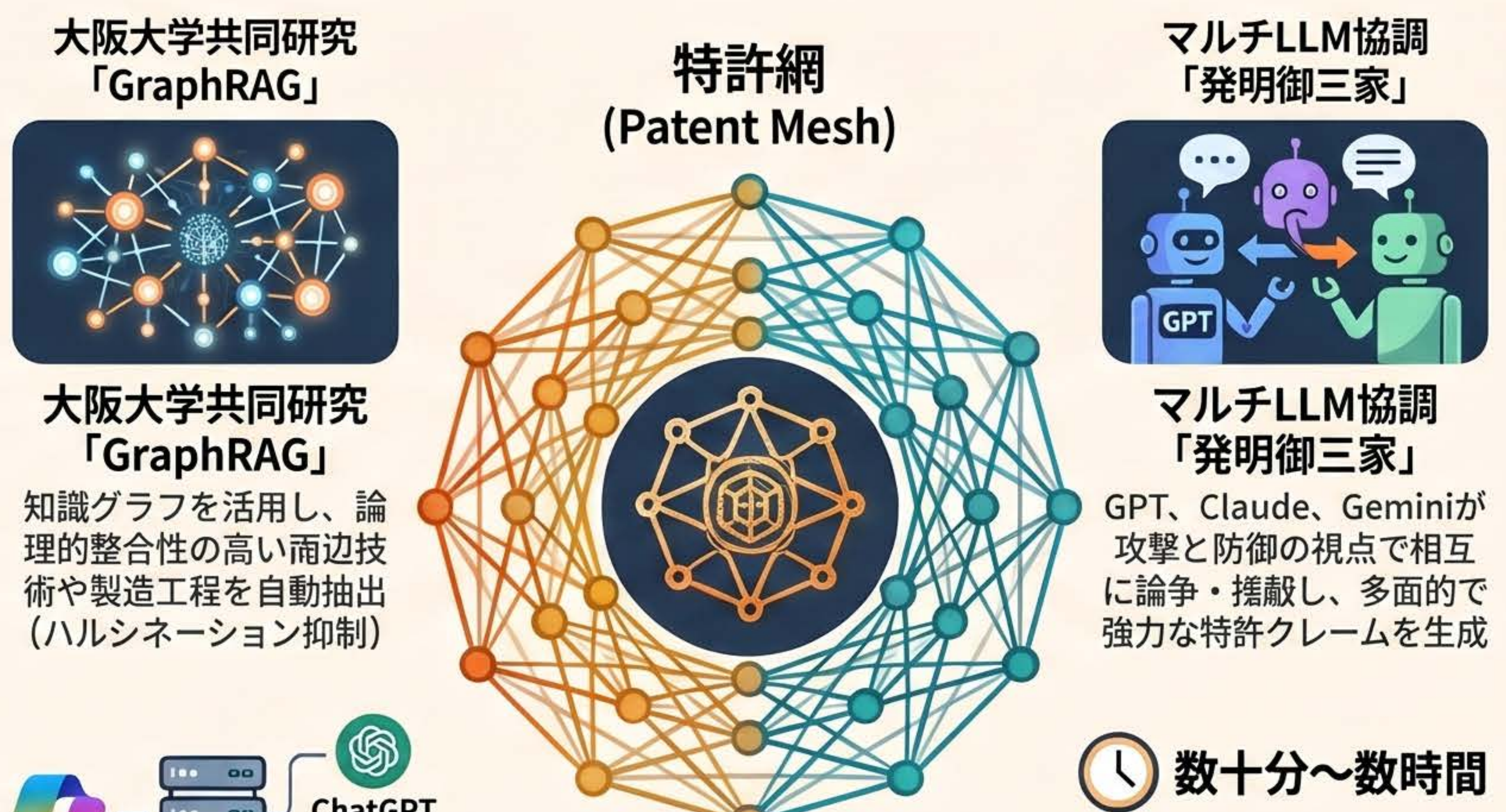
2023～2025年型：人間主体の単一草稿作成（受動的）



従来のアプローチ

主要機能：	単一発明の草稿作成・拒絶理由対応
アプローチ：	人間が考えた1件の成文化

2026年型：AI主体の特許網自動生成（能動的）



主要機能：	競合を封じる「特許網」の戦略的生成
アプローチ：	未来の設計回避を予測した包囲網設計（能動的）

知財格差を打破する経営インパクト



知財防衛の民主化
多額の費用が必要だった「面による防衛網」を中小企業や研究機関でも構築可能にし、技術流出を防ぐ。



戦略策定時間を数週間から「数十分」へ
ポートフォリオ全体の戦略骨子策定を飛躍的に高速化し、開発サイクルの加速に対応。



企業価値（バリュエーション）の向上
スタートアップが自社のコア技術を多重防御していることを投資家に示し、資金調達を有利に進める武器となる。